

親子 de エゾシカを知ろう in 道民の森

NPO 法人エゾシカネット

エゾシカのことを総合的に知ってもらうため、多少欲張りでしたがたくさんのメニューを用意し、10月1日～2日宿泊を兼ねて道民の森で実施しました。参加者は大人・子ども合わせて36名。

まずエゾシカの生態・被害について学んだ。展示のパネルやスクリーンにて説明。大きなオスだと150キロほどの体重、二つに分かれた蹄を持つ、角はメスを巡る闘いの最終武器。頭数の目安として6万頭以上だと「大発生」だが、今は約47万頭。旺盛な繁殖力に加え農耕地の拡大などエゾシカ都合の良い環境を人間が作ってしまった、暖冬による死亡率の低下などたくさんの要因がある。牧草にエゾシカの臭いがつくともう牛は食べない。

駆除はかわいそうだが人の手で増やした以上責任をとらなくてはならない。人間との共存を考えるきっかけにしなければならない。



＜鹿角工作では、思い思いの作品を＞

その後指導員のもと1時間ほど森探索企画。道民の森の概要、森の役割、棲む動物や昆虫・小鳥や樹木のガイドを受ける。ミズナラの大きさに驚き、赤い実のリンドウに魅かれ、シナノキに親しみを覚え、樹木あてクイズに腕を組む子どもたち……。

次は鹿角加工作品創り。根の部分、先端部分、曲がった部分、すべてが貴重です。ボール盤で穴をあけ糸を通して、サンドペーパーで磨くなど人の手を加えることで鹿角は立派な作品となる、貴重な有効活用で大好評でした。



次は食育です。料理体験の狙いは鹿肉に対する従来の印象（臭い、硬い）を払拭することです。そのほか栄養価値を再認

＜ガイドから森のはたらきを学ぶ＞

識したり料理のポイントと味付けで美味しく食べれることなど理解してもらうこと、鹿肉は家庭で手軽にできることを認識してもらうことです。

今回はエゾシカカレーと焼肉に挑戦しました。筋引きと二度の残存血液処理、カット後の湯通しなども学んだ。アンケートのとおり大きな評価を得、狙いが伝わったようです。

その後は野営場に場所を変え、みんなで作った鹿料理に舌鼓、楽しいひととき。夜7時から絵本よみかせや音楽などを取り入れた参加者の交流会を実施した。

翌日はエゾシカポルカで眠気を吹き飛ばしたあとアカエゾマツ人工林に向かい、枝打ち体験をしました。枝打ちの目的は「筋の少ない高品質の木材を生産する」「太陽の光を地表まで届けて下草を生えさせる」という説明があり、枝打ち体験をしたが参加者のほとんどが初めてということもあり熱心に聞いていました。

鋸を使い全員で下枝を払ったが作業が終わると森の中がすっきり見通せるようになって皆さんとても満足そうでした。

最後の活動は「植樹」。専門指導者から木を植えることの意義や植付け方法について説明を受けた後、道民の森来園者用に石狩振興局が用意していたトドマツ・アカエゾマツ・ミズナラ・シラカンバなどの苗木をいろいろ取り混ぜながら植えていきます。参加者は自分で木を植える機会が少ないこともあって事前の説明どおりに丁寧に、そして愛おしそうに一本一本植えていました。



<植樹・それぞれにとっていい思い出に>

最後にいつか大きく育った木と再会できる時を思い浮かべながら記念写真をパチリ。

2日間はあっという間に過ぎました。今回の企画をつうじて参加者は貴重な体験をし、家族ごと・グループごとに助け合う機会もできました。また人どうしの交流もでき、効果は計り知れないものがありました。

これも前田一歩園財団のおかげです。大変ありがとうございました。